

地域の要望が市長に届く「予算要望書」

予算要望書は、私たちが重点を置いて欲しい事業を、市長に直接伝え、予算をつけてもらえるよう要望するものです。毎年、地域住民と一緒に内容を考えています。昨年10月25日、熊谷市長に提出しました(写真)。

下記に一部を掲載します。次回の要望にむけて、あなたのご意見をぜひお寄せください。



福祉

24時間365日の相談体制で、

- ・高齢・障がい・子ども等、分野横断的な支援
- ・関係機関のコーディネート
- ・高度な専門性を持つ寄り添い支援を行うこと。

女性の働く

若年女性無業者[※]への支援プログラムを、男女共同参画センターで企画すること。

※15～34歳の非労働力人口のうち、家事も通学もしていない女性



まちづくり・防災

災害時に誰でも避難所運営の初動体制を作れるように、地域の避難所運営委員会に対して啓発すること。



避難所開設訓練

教育

中学校の形式卒業生や、日本語指導が必要な生徒の「学ぶ権利」を保障するため、夜間中学の開設に向けての検討を進めること。



環境

海洋環境を汚染するマイクロプラスチックの発生を防ぐため、市民が日常生活を見直すよう啓発すること。



市民参加と協働

各区に市民活動支援センターと同等の相談窓口や情報提供機能を置くこと。



多様性の尊重



人権問題を担当する部署を設置し、包括的な人権施策を進めること。

オリンピック・パラリンピック

来訪者や市民にとって移動しやすいまちづくりを目指して、例えば「パーク&ライド」や「循環バス」を取り入れるなど、交通機関の整備をすること。

子どもの貧困

スクールソーシャルワーカーが直接児童・生徒へのアウトリーチできるよう、体制を整えること。



NICU(新生児集中治療室)は30床あります。2016年12月に小児医療センターがさいたま新都心に移転したの体制になってから、埼玉県内のハイリスク妊婦さんが赤十字病院に入院し、そのまま母体も新生児もケアを受けられるようになったそうです。

さいたま新都心駅前に、さいたま赤十字病院(民間病院)と埼玉県立小児医療センター(公立病院)があります。それぞれ別の病院ですが、上階の通路で建物がつながっています。赤十字病院の産科で、低体重・多胎・疾患などハイリスクの赤ちゃんが産まれると、すぐに小児医療センターのスタッフや赤ちゃんを迎えに行き、新生児治療がスタートします。



いわさき明子と松井かよ子

視察報告

やればできる! 病院連携

公立病院、民間病院の垣根を越えて、不足する産科や小児科の医師を取り合うのではなく、病院相互に補完・連携すること
 ・病院として必要な役割を決め、「なんでもあり」ではなく「ここにしかない」に特化すること
 が重要です。ほかにも、小児医療センターには、子どもたちが入院前と変わらない教育を受けられるよう県立の特別支援学校が併設されていたり、付き添いの家族が滞在できるドナルド・マクドナルド・ハウスが病院に設置されていたりと、子どもにも特化した「ここにしかない」環境を提供しています。患者の目線で病院のあり方を考えていく必要性を実感しました。



NICUを見学

ご参加ください 議員とお話しませんか? 意見交換会のご案内

- 1月29日(火) 13時半～15時半 大宮台(若葉区) 自宅で住み続けるためにできること
- 1月30日(水) 13時半～15時 みはまネット事務所(稲毛海岸) 2019年千葉市に望むこと
- 1月31日(木) 13時半～15時半 都賀コミュニティ(若葉区) 家族信託(実家を空き家にしないために)
- 2月1日(金) 10～12時 千城台コミュニティ PTAお悩み相談室
- 2月7日(木) 10～12時 幕張本郷(花見川区) ミニ意見交換会

詳しくはお問い合わせください

